

資料

1 計画検討組織

- 1 国際化・多文化共生推進計画策定委員会設置要綱・委員名簿 56
- 2 私と刈谷と世界をつなぐミーティング・参加者名簿 58

2 刈谷市の国際化・多文化共生に関する調査まとめ

- 1 調査の概要 59
- 2 刈谷市の外国人市民の居住状況と特性 60
- 3 外国人の来日・在住の背景と刈谷市における動向 62
- 4 外国人市民の刈谷市での暮らし（生活・文化・習慣） 65
- 5 外国人市民の幸福度と悩みや困りごと 65
- 6 外国人市民の子どもとその教育 67
- 7 外国人市民から見た刈谷市や日本（人）への評価 69
- 8 外国人市民と日本人市民との関わり・交流 72
- 9 外国人市民における国際化・多文化共生 76
- 10 日本人市民における国際化・多文化共生 79
- 11 外国人市民との関わりでこころ温まる話 81
- 12 具体的にやりたいこと、貢献できそうなこと 82

1

計画検討組織
計画づくりに関わった人たち

① 刈谷市国際化・多文化共生推進計画策定委員会

■ 刈谷市国際化・多文化共生推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 刈谷市国際化・多文化共生推進計画を策定するに当たり、市民及び関係機関の意見を反映させるため、刈谷市国際化・多文化共生推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、刈谷市国際化・多文化共生推進計画の策定について、意見を述べるものとする。

(組織)

第3条 委員会は、委員14人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 関係機関を代表する者

(3) 市内に住所を有する者

(任期)

第4条 委員の任期は、刈谷市国際化・多文化共生推進計画が策定されるまでとする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となり、議事を整理する。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、市民活動部市民協働課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成23年5月10日から施行する。

(この要綱の失効)

2 この要綱は、刈谷市国際化・多文化共生推進計画が策定された時にその効力を失う。

■ 委員名簿

学識経験を有する者	愛知淑徳大学 教授	榎田 勝利
地域代表	刈谷市自治連合会 代表	石川 弘之
警察署	愛知県刈谷警察署 代表	柳沢 信吾
医療機関	刈谷豊田総合病院 地域医療・総合相談センター 医療福祉相談室	長井 香世子
企業	株式会社豊田自動織機 人事部組織人事室 海外人事グループ	内藤 康喜
	刈谷機械工業組合 代表	新美 泰子
大学	国立大学法人 愛知教育大学	稲吉 隆
教育委員会	刈谷市教育委員会	山田 基
国際交流 中間支援団体	公益財団法人愛知県国際交流協会	栗木 梨衣
	刈谷市国際交流協会	榊原 進
市民委員	市民委員	バルボサ アンドレス
	市民委員	都築 義孝
	市民委員	江坂 康弘
行政	刈谷市役所 市民活動部	鶴見 満

事務局

刈谷市

市民活動部 市民協働課長	神谷 孝彦
市民活動部 市民協働課 市民協働担当総括 副主幹	丹羽 雅彦
市民活動部 市民協働課 市民協働担当 主査	大矢 桂己
市民活動部 市民協働課 市民協働担当 主査	鳥居 信宏

計画策定支援団体

特定非営利活動法人N I E D・国際理解教育センター 代表理事	伊沢 令子
特定非営利活動法人N I E D・国際理解教育センター 事務局長	川合 眞二

② 私と刈谷と世界をつなぐミーティング

■ 参加者名簿

(ステージ別五十音順)

名前	1stステージ	2ndステージ	名前	1stステージ	2ndステージ
小田 浩喜	○	○	吉岡 稔	○	
河村 槇子	○	○	磯村 義宣		○
小森 義史	○	○	伊東 智美		○
柴田 幹代	○	○	江花 典子		○
鈴木 隆	○	○	尾澤 政哉		○
塚本 裕子	○	○	胡 一超		○
永田 徳枝	○	○	後藤 メアリー		○
野島 美智子	○	○	瀬古 香織		○
野々山 定弘	○	○	竹内 マリテス		○
平野 清恵	○	○	玉村 未妃		○
平野 紀久子	○	○	張 利勇		○
水谷 恭之	○	○	デメロ アンセルモ		○
米山 琴美	○	○	中村光茂		○
米山 裕美	○	○	永谷 喜一		○
磯貝 愛	○		原田 トモ子		○
岩田 亜未	○		ミール・ジャハンギール ・アラム		○
オコネル ショーン	○		村井 さち		○
杉田 純子	○		村瀬 友駿		○
竹内 綾	○		柳 子政		○
田中 三春	○		山田 恵子		○
出口 浩子	○		吉岡 香花		○
西村 あき子	○		李 娟		○
日比野 英紀	○		ほか	2名	4名
深津 朋宏	○		合計	27名	39名

2

刈谷市の国際化・多文化共生に関する調査まとめ
統計とアンケート調査からみた意識と実態

① 調査の概要

本調査のまとめは、平成 22 年度に行われた刈谷市の外国人市民、日本人市民、市職員に対するアンケート調査、および刈谷市や国による各種統計データなどに基づき、刈谷市の国際化・多文化共生に関する意識や実態を明らかにしたものです。

両調査の概要は、以下のとおりです。なお、統計データは、特に記載がない限り、平成 22 年 12 月 31 日現在または平成 22 年度実績となっています。

● 刈谷市の国際化・多文化共生に関するアンケート調査

- ◇ 実施主体 : 刈谷市
- ◇ 調査期間 : 外国人市民、日本人市民…平成 23 年 1 月 7 日～平成 23 年 2 月 21 日
市職員…平成 23 年 3 月 7 日～17 日
- ◇ 調査方法 : 郵送調査、外国人市民の一部は対面調査、市職員は庁内 LAN 利用
- ◇ 回答者数 : 外国人市民…216 人 (回収率 38.7% [郵送調査分])
日本人市民…533 人 (回収率 53.6%)
市職員 …534 人 (回収率 57.9%)
- ◇ 回答属性 : 男女比 ブラジル…56 : 44 フィリピン…39 : 61 中国…43 : 57
韓国・朝鮮…46 : 54 その他…59 : 41
年代ピーク ブラジル…40 歳代 フィリピン…30 歳代
中国…20 歳代 韓国・朝鮮…60 歳以上 その他…20、30 歳代

● 主な各種統計データ

- ◇ 刈谷市役所市民課、愛知県、法務省「外国人登録者数」
- ◇ 刈谷市役所市民課「住民基本台帳人口」
- ◇ 刈谷市役所市民協働課「外国人生活相談内容集計」
- ◇ 刈谷市役所学校教育課「外国人児童生徒在籍状況」
- ◇ 法務省「全国国籍日本企業への就職目的在留資格認定数」
- ◇ 法務省「全国国籍別留学生等からの就職目的の申請数の推移」
- ◇ 厚生労働省「人口動態統計」
- ◇ 財団法人国際研修協力機構「技能実習生・研修生」の統計

● その他参考資料

- ◇ 研修・派遣関連事業者ヒアリング調査 (刈谷市) 平成 23 年 3 月 25 日実施
- ◇ 外国人県民アンケート調査 (愛知県) 平成 21 年 12 月 22 日～平成 22 年 2 月 15 日実施
- ◇ 外国人市民アンケート調査 (愛知県) 平成 21 年 10 月 20 日～平成 22 年 2 月 28 日実施
- ◇ その他インターネット上のウェブサイトの各種情報

② 刈谷市の外国人市民の居住状況と特性

平成 22 年 12 月末現在で、刈谷市の外国人市民は 3,922 人、総人口に占める比率は 2.68% です。この比率は、全国平均よりは高く、愛知県内では平均的です。

- 日本全国における外国人比率は 1.71%で、それに比べ刈谷市の外国人比率は 0.97 ポイント高い。→表 2-1
- 県内 57 市町村の中で、刈谷市は 12 番目に外国人が多い。1 位は名古屋市、2 位は豊橋市、3 位は豊田市である。→表 2-2
- 外国人比率は 20 位で、1 位は知立市 6.18%、2 位は小牧市 5.44%、3 位は岩倉市 5.43%である。→表 2-2

表 2-1: 刈谷市の主要国籍別外国人登録者数と愛知県・全国との比較

国籍	刈谷市(人口)	刈谷市(割合)	愛知県(割合)	全国(割合)
ブラジル	1,080 人	27.5% ①	29.0%	12.2%
フィリピン	988 人	25.2% ②	12.5%	9.7%
中国	955 人	24.3% ③	23.3%	31.1%
韓国・朝鮮	339 人	8.6% ④	18.8%	26.5%
その他	560 人	14.4%	16.4%	20.5%
合計(人)	3,922 人		約 20.5 万人	約 219 万人
総人口比	2.68%		2.77%	1.71%

全国は H21.12.31 現在

表 2-2: 県内の外国人及びフィリピン人が多い上位 3 都市と刈谷市の順位

順位	外国人総数		外国人比率		フィリピン人数		フィリピン人比率	
1 位	名古屋市	67,154 人	知立市	6.18%	名古屋市	7,446 人	豊山町	1.55%
2 位	豊橋市	16,517 人	小牧市	5.44%	豊橋市	1,896 人	蒲都市	0.81%
3 位	豊田市	14,444 人	岩倉市	5.43%	岡崎市	1,384 人	刈谷市	0.67%
刈谷市	12 位	3,922 人	20 位	2.68%	7 位	988 人	3 位	

刈谷市の外国人市民の構成は、概ねブラジル 1 / 4、フィリピン 1 / 4、中国 1 / 4、その他 1 / 4 となっています。県内他都市と比べると、特にフィリピン人が多くなっています。

- 国籍別にみると、1位はブラジル 1,080 人であるが、2位フィリピン 988 人、3位中国 955 人も同程度となっている。→表 2-1
- 全国的には、国籍別の構成割合は、1 位中国 31.1%、2 位韓国・朝鮮 26.5%であるが、愛知県では 1 位ブラジル 29.0%、2 位中国 23.3%という順で、フィリピンは 12.5%であるのに対し、刈谷市ではフィリピンの構成割合が 25.2%(2 位)と高い。→表 2-1
- 県内市町村の中で、刈谷市は 7 番目にフィリピン人が多い。特に、フィリピン人比率でみると 3 番目となっている。→表 2-2
- その他の国籍 560 人の主な内訳は、ベトナム 128 人、ペルー 71 人、インドネシア 47 人、スリランカ 40 人、タイ 35 人、米国 35 人、インド 25 人、ネパール 19 人、ニュージーランド 20 人、ミャンマー 13 人、パキスタン 11 人、マレーシア 11 人、アルゼンチン 10 人、オーストラリア 9 人、ロシア 7 人などで、アジア系が多い(合計 46 か国)。→表 2-1

刈谷市は、外国人が大規模に集住する地域はなく、市内に分散して住む「外国人散住都市」です。ただし、外国人比率が比較的高く同じ国籍の外国人が多く集まる学区・町はあります。

- ▶ 外国人比率は、中学校区別で 1.9%～3.6%であり、外国人が多い上位 20 町でみても、最大で 9.4% (60 人)、大半が 4%以下となっていることから、豊田市保見ヶ丘団地 (外国人 3,934 人、比率 47.9%、H22.10.30) や知立市知立団地 (外国人 2,634 人、比率 53.9%、H21.4.1) のように、外国人が大規模に集住する地域はなく、ある程度分散して住んでいる。→[図 2-1](#)、[表 2-3](#)
- ▶ その中でも外国人比率が比較的高い中学校区は、朝日中学校区 3.6%、雁が音中学校区 3.5%である。→[図 2-1](#)
- ▶ 国籍別にみると、ブラジル人は朝日中学校区 337 人 (うち野田町 208 人)、雁が音中学校区 272 人 (うち一ツ木町 114 人、築地町 48 人)、フィリピン人は雁が音中学校区 338 人 (うち一ツ木町 176 人、築地町 112 人)、中国人は富士松中学校区 261 人 (うち一里山町 81 人) が、それぞれ多い学区、町となっている。→[図 2-1](#)、[表 2-3](#)
- ▶ ちなみに、上位 20 町にある公営住宅は、いずれも小規模な集合住宅で、県営が新田町、半城土町、神明町に、市営が一ツ木町、野田町、小垣江町、恩田町、丸田町に、雇用促進住宅が野田町にある。なお、市アンケート調査では、外国人が住む住宅の種類は、公営住宅 19%、社宅・寮 16%、民間賃貸 37%、持ち家 25%であった。→[図 4-1](#)

図 2-1：刈谷市の中学校区別外国人人口と主要国籍の内訳

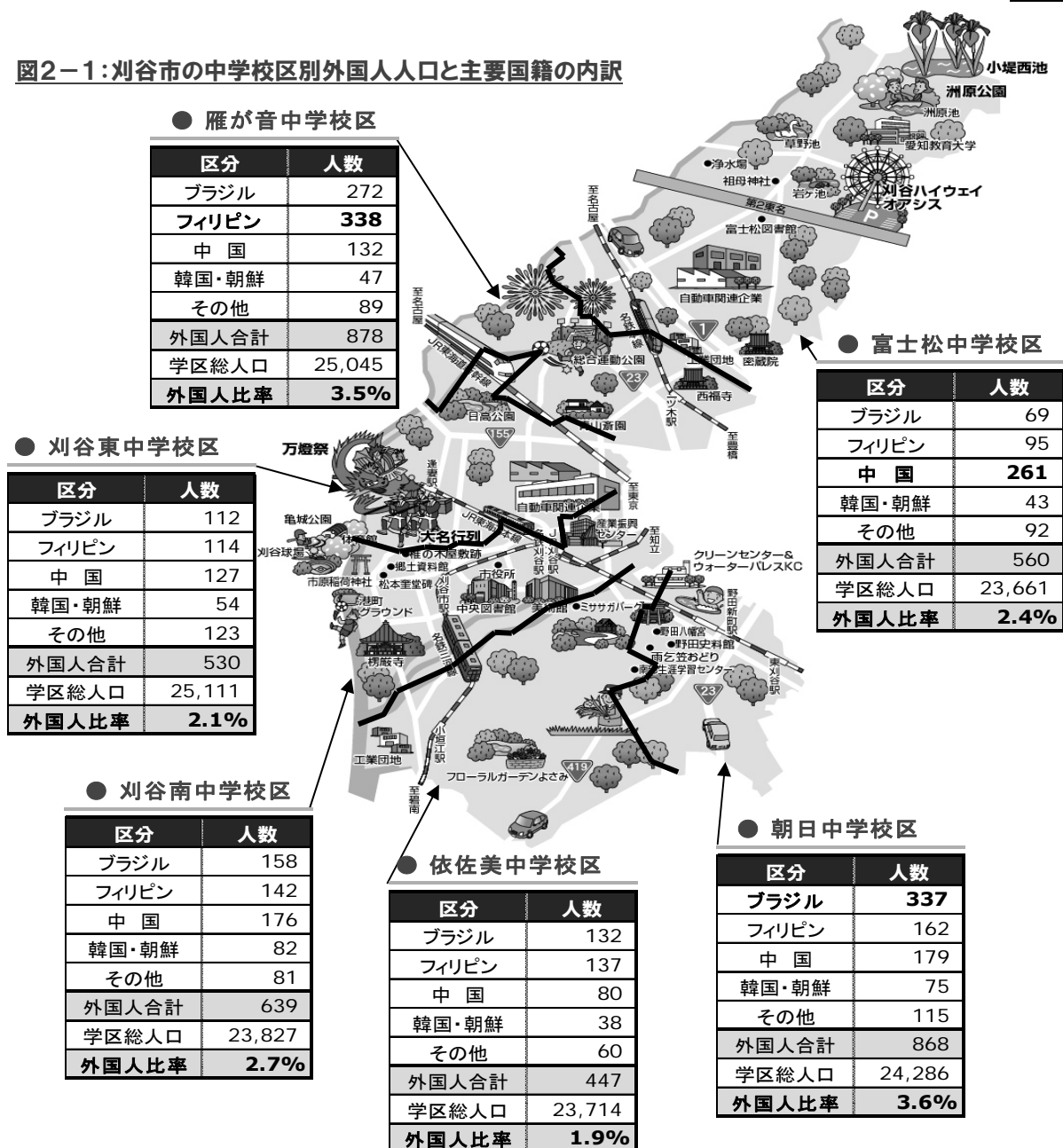


表2-3: 刈谷市の外国人が多い上位20町と主要国籍の内訳

順位	中学校区	町名	町人口	外国人	外国人比率	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
1	雁が音	一ツ木町	10,126	379	3.7%	114	176	46	20	23
2	朝日	野田町	10,720	376	3.5%	208	47	51	23	47
3	依佐美	小垣江町	12,620	298	2.4%	75	115	48	19	41
4	雁が音	築地町	5,670	221	3.9%	48	112	23	9	29
5	富士松	井ヶ谷町	5,533	148	2.7%	13	22	53	14	46
6	朝日	板倉町	3,362	125	3.7%	44	28	27	11	15
7	富士松	東境町	7,867	123	1.6%	13	49	41	13	7
8	雁が音	恩田町	2,965	109	3.7%	22	31	31	7	18
9	富士松	一里山町	1,814	102	5.6%	4	2	81	4	11
10	朝日	東刈谷町	3,369	98	2.9%	28	22	19	9	20
11	富士松	今川町	4,583	91	2.0%	14	9	42	9	17
12	依佐美	半城土町	3,880	86	2.2%	13	16	29	17	11
13	雁が音	泉田町	5,247	83	1.6%	36	8	18	7	14
14	朝日	末広町	2,351	73	3.1%	7	21	26	6	13
15	朝日	松栄町	2,327	69	3.0%	27	8	18	10	6
16	刈谷東	神明町	1,880	65	3.5%	8	16	21	3	17
17	刈谷東	丸田町	858	62	7.2%	45	4	4	5	4
18	刈谷東	新田町	640	60	9.4%	47	3	4	1	5
19	刈谷南	高松町	1,585	59	3.7%	36	1	14	5	3
20	刈谷南	一色町	1,339	53	4.0%	22	4	12	11	4

③ 外国人の来日・在住の背景と刈谷市における動向

刈谷市の外国人市民の来日・在住の主な背景は、ブラジル人が「就労」、フィリピン人が「結婚」「就労」、中国人が「研修」「就労」「留学」、などです。

- ▶ ブラジル人は、1990年の入管法の改正・施行、2000年以降の日本の経済成長が間接雇用の労働力を必要としたことを背景に、就労を目的に来日した。その間、日本での定住（継続的な就労を含む）を望むブラジル人も増えた。刈谷市では永住資格を持つブラジル人が約58%、定住資格を持つ者が約30%となっている。→表3-1、表3-2
- ▶ フィリピン人は、当初は興行ビザでの来日がほとんどであったが、制度改革や日本人と結婚したフィリピン女性が一定規模の割合を占めるようになった。刈谷市では日本人の配偶者等の資格を持つフィリピン人が約12%おり、また、結婚中に永住資格を取る者、日本人と離婚した後も育児のため定住資格を取る者も少なくない。→表3-1、表3-2
- ▶ そのほかフィリピン人の中には、研修・技能実習制度を利用して研修や就労をする者、日系フィリピン人として定住資格で就労する者があり、刈谷市のフィリピン人の中にも前者は約11%、後者は不明だが一定量いると考えられる。→表3-1、表3-2
- ▶ 中国人は、経済相互依存の進展と国際化に伴い、日本で学び就労する機会が増えたことを背景に、留学、研修、就労で来日する者が増えた。刈谷市では、研修・技能実習等資格者約30%、通訳など技術・技能・人文知識等資格者約23%、就学・留学資格者約5%となっている。また、長期的な就労に伴い、家族滞在資格者が約14%、永住者資格者約18%となっている。→表3-1、表3-2
- ▶ 市内にある愛知教育大学で受け入れている留学生は64名/2008年で、その多くは中国人である。

表3-1: 外国人の主要国籍別の来日・在住の背景（日本全体）

ブラジル	<p>◇1990年の「出入国管理及び難民認定法」の改正・施行に伴い、新たに日系人に国内での就労に制限の無い「定住者」資格が与えられたことを契機に、日系ブラジル人（1908年以降、ブラジルに移住として渡った日本人の子孫。推定140万人）とその配偶者等が、「デカセギ」により来日するようになり、2007年末のピークには全国で約32万人となった。労働者の多くが、派遣や業務請負という間接雇用の形態で就労し、2000年以降の日本の経済発展に貢献した。</p>
フィリピン	<p>◇1980年代頃から、パブのホステスなどに従事するため、興行ビザで来日するフィリピン女性が増え、2000年前後が最盛期で、2003年には全国で約8万人／年であった。2005年に興行ビザの撤廃により、新たな来日者が激減したが、日本人との結婚や育児により、日本に留まっている者も多くなる。</p> <p>◇研修・技能実習制度（中国の欄参照）により、来日するフィリピン人は、2008年のピークには全国で約3,800人／年となった。</p> <p>◇ブラジルと同様に、日系フィリピン人（19世紀末から太平洋戦争終結まで、フィリピンに渡った移民の子孫。推定10～20万人）とその配偶者等が来日し、労働者が日本の企業で就労している。</p> <p>◇日本人のフィリピン女性との国際結婚は、平均9,000組／年（2005～09年）あり、結婚を契機に、来日するフィリピン人もいる。</p> <p>◇2008年の経済連携協定に基づくフィリピン人看護師・介護福祉士候補者の受入が2009～2010年度に約400人行われた。</p>
中国	<p>◇1993年に創設された外国人研修・技能実習制度により、中国人が、研修施設や企業で、研修と実習・労働を行うため来日するようになり、2007年のピークには全国で約59,000人／年となった。</p> <p>◇外国人留学生数は経済成長と共に伸びており、そのうち中国人は約60%を占め、2009年には約79,000人となっている。</p> <p>◇留学・就学後に、日本の企業に就職するために在留資格を取る中国人は、2008年のピークには約8,000人／年であった。</p> <p>◇専門技術や知識を活用して日本企業等に就職するために在留資格を取る中国人は、2007年のピークで約7,000人／年であった。</p> <p>◇日本人の中国人女性との国際結婚は、平均12,000組／年（2005～09年）あり、それを契機に来日する中国人もいる。</p>
韓国・朝鮮	<p>◇1876年の日韓併合以降、朝鮮半島から日本に渡って、戦後もそのまま日本に残留した。その子孫が韓国・朝鮮籍を選ぶ。</p> <p>◇中国人と同様に、留学生が2009年に約19,600人、留学・就学後に日本企業に就職する者が約1,400人／2008年、専門技術や知識を活用して日本企業に就職する者が約3,300人／2007年であった。</p>

表3-2: 刈谷市における在留資格別／男女別の主要国籍の外国人の内訳

区分	特別永住者	永住者	定住者	日本人の配偶者等	永住者の配偶者等	家族滞在	技術・技能・人文知識等	研修・技能実習等	就学・留学	その他	合計	
外国人全体	男	143 3.6%	650 16.6%	301 7.7%	93 2.4%	18 0.5%	47 1.2%	293 7.5%	328 8.4%	41 1.0%	67 1.7%	1,981 50.5%
	女	119 3.0%	759 19.4%	293 7.5%	248 6.3%	24 0.6%	148 3.8%	70 1.8%	201 5.1%	40 1.0%	39 1.0%	1,941 49.5%
	計	262 6.7%	1,409 35.9%	594 15.1%	341 8.7%	42 1.1%	195 5.0%	363 9.3%	529 13.5%	81 2.1%	106 2.7%	3,922 100.0%
ブラジル	男	-	348 32.2%	176 16.3%	62 5.7%	2 0.2%	-	4 0.4%	1 0.1%	-	5 0.5%	598 55.4%
	女	-	283 26.2%	149 13.8%	42 3.9%	4 0.4%	1 0.1%	-	-	-	3 0.3%	482 44.6%
	計	-	631 58.4%	325 30.1%	104 9.6%	6 0.6%	1 0.1%	4 0.4%	1 0.1%	-	8 0.7%	1,080 100.0%
フィリピン	男	-	165 16.7%	96 9.7%	3 0.3%	15 1.5%	1 0.1%	24 2.4%	79 8.0%	-	30 3.0%	413 41.8%
	女	-	277 28.0%	114 11.5%	112 11.3%	11 1.1%	3 0.3%	8 0.8%	25 2.5%	-	25 2.5%	575 58.2%
	計	-	442 44.7%	210 21.3%	115 11.6%	26 2.6%	4 0.4%	32 3.2%	104 10.5%	-	55 5.6%	988 100.0%
中国	男	-	62 6.5%	5 0.5%	2 0.2%	-	32 3.4%	171 17.9%	165 17.3%	27 2.8%	2 0.2%	466 48.8%
	女	-	112 11.7%	4 0.4%	66 6.9%	6 0.6%	98 10.3%	50 5.2%	124 13.0%	25 2.6%	4 0.4%	489 51.2%
	計	-	174 18.2%	9 0.9%	68 7.1%	6 0.6%	130 13.6%	221 23.1%	289 30.3%	52 5.4%	6 0.6%	955 100.0%
韓国・朝鮮	男	143 42.2%	6 1.8%	-	-	-	3 0.9%	16 4.7%	-	-	1 0.3%	169 49.9%
	女	119 35.1%	22 6.5%	-	8 2.4%	-	11 3.2%	3 0.9%	1 0.3%	6 1.8%	-	170 50.1%
	計	262 77.3%	28 8.3%	-	8 2.4%	-	14 4.1%	19 5.6%	1 0.3%	6 1.8%	1 0.3%	339 100.0%
その他	男	-	69 12.3%	24 4.3%	26 4.6%	1 0.2%	11 2.0%	81 14.5%	80 14.3%	14 2.5%	29 5.2%	335 59.8%
	女	-	65 11.6%	26 4.6%	20 3.6%	3 0.5%	35 6.3%	9 1.6%	51 9.1%	9 1.6%	7 1.3%	225 40.2%
	計	-	134 23.9%	50 8.9%	46 8.2%	4 0.7%	46 8.2%	90 16.1%	131 23.4%	23 4.1%	36 6.4%	560 100.0%

刈谷市の外国人市民は、20～30代が多く、20代での外国人比率は5.3%におよびます。

- ▶ 外国人市民の年代構成割合をみると、20～30代で合計56.5%を占めており、市全体の32.4%と比べてもかなり多くなっている。→表3-3
- ▶ 総人口に占める外国人市民比率で見ると、20代は5.3%と19人に1人が外国人市民である。→表6-1(P.69)

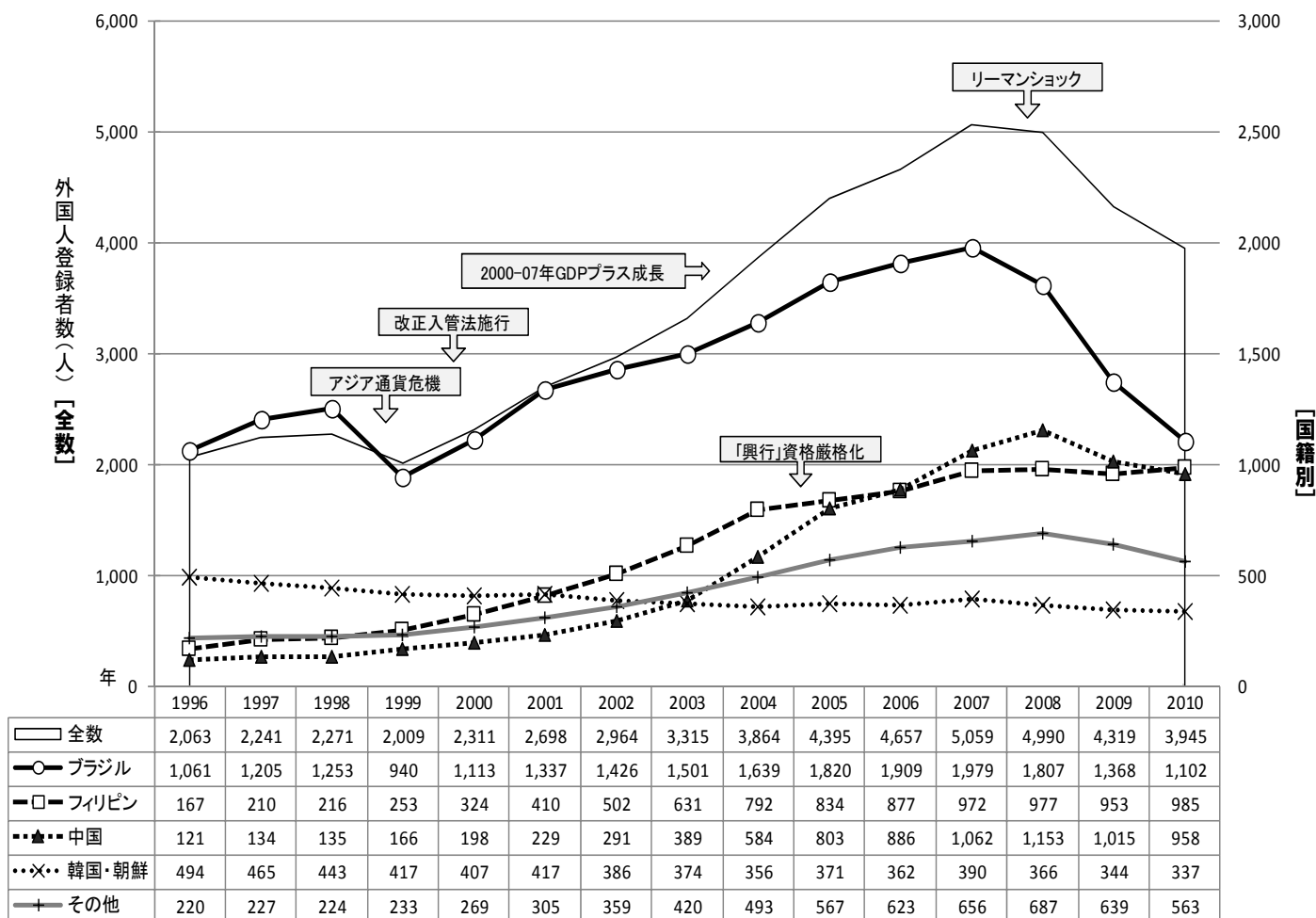
表3-3:外国人の年代構成割合

(市全体)	構成割合	男	年代	女	構成割合	(市全体)
5.4%	5.0%	198	0	177	4.5%	5.0%
5.4%	3.3%	131	10	124	3.2%	5.0%
8.8%	15.1%	593	20	542	13.8%	6.3%
9.5%	13.2%	519	30	566	14.4%	7.8%
7.5%	7.3%	285	40	318	8.1%	6.4%
5.6%	4.3%	169	50	131	3.3%	5.2%
5.9%	1.5%	60	60	47	1.2%	5.7%
4.5%	0.7%	26	70-	36	0.9%	5.9%

刈谷市の外国人市民の人口は、「就労」を背景に、特にブラジル人で、景気に大きく左右され増減しています。ただし、フィリピン人は景気減退時でも増えています。

- ▶ 刈谷市の外国人の人口は、1999年の2,009人から、自動車関連産業への就労等に伴い、年々増加し、2007年の日本経済のピーク時には5,059人となったが、リーマンショック以降、2年間で1,000人以上減少した。→図3-1
- ▶ 外国人の人口は、間接雇用を中心とした就労や一部就労を伴う研修が、景気の動向に左右され受入量が変化するに伴い、増減している。→図3-1
- ▶ 「2007年以降刈谷市から転出したブラジル人の1/3は帰国、2/3は関東に仕事を求めた。自動車関連産業の景気が戻れば、再び戻ってくる。」と事業者は推察している。→事業者ヒアリングより

図3-1:刈谷市における主要国籍別の外国人登録者数の推移 (各年.10月1日現在)



④ 外国人市民の刈谷市での暮らし（生活・文化・習慣）

外国人市民の刈谷市における日々の生活スタイルは、個人の立場や嗜好によって変わるものですが、基本的には日本人市民の典型的な暮らし方とよく似ています。

- ▶ 主要な国籍ごとに、代表的な属性の外国人市民の平日の生活スタイルの一例をみると、日本人市民と同じように、性別、職業、家族などに応じた生活スタイルとなっている。→[表 4-1](#)
- ▶ 外国人市民の休日の過ごし方を見ても、個別に多少の割合の違いはあるものの、上位4位までは同様であり、日本人市民の過ごし方と大差はない。→[表 4-2](#)
- ▶ 国籍別にみると、フィリピンの1位は「洗濯や掃除などの家事をする」、中国の1位は「ショッピングに行く」、韓国・朝鮮の1位は「家でのんびり休養する」となっており、主な属性を背景にした特徴が現れている。→[表 4-2](#)

表4-1：代表的な属性の外国人市民の平日の生活スタイルの一例

国籍	属性	平日の平均的な生活スタイル
ブラジル	男、30～39歳、 短期契約の会社員、 民間の賃貸住宅、親子、永住者	◇7時に起床、7時～7時30分に朝食を取り、会社に8時に出社。 ◇21時まで仕事をして、21時30分に帰宅。 ◇夕食後は、趣味・娯楽やテレビ・インターネットを楽しみ、24時に就寝。
フィリピン	女、20～29歳、専業主婦、 持ち家（一戸建）、親子、 日本人の配偶者等	◇7時に起床、7時～8時に子どもと朝食、午前中は掃除・洗濯などの家事。 ◇12時頃に子どもと昼食、午後は、自宅で休養したり、子どもと遊んだり。 ◇18時から夕食の準備をして19時から家族で夕食。 ◇21時以降はテレビを見ながら家族団らんして、23～24時頃就寝。
中国	男、20～29歳、 短期契約の会社員、社員寮、 ひとり暮らし、研修又は特定活動	◇7時に起床、朝食後、8時に出勤。 ◇昼食を挟んで、20時まで仕事。 ◇その後は社員寮で、テレビなどでくつろぎ、勉強もしつつ、24時には就寝。
韓国・ 朝鮮	女、60～69歳、 パート・アルバイト、 持ち家（一戸建）、親子孫、 特別永住者	◇5時30分に起床、7時まで家事、朝食後、再び8時まで家事。 ◇8時～10時までパート仕事、10時～11時過ぎまで買い物。 ◇家事後、12時頃昼食、くつろいだ後、再び13時～18時までパート仕事。 ◇18時から夕食の準備、19時から夕食。 ◇片付け後、20時30分から1時間程度テレビを見て、21時30分には就寝。

表4-2：外国人市民と日本人市民の休日の過ごし方（複数回答）

選択肢	国籍						日本籍 (刈谷市)
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他	
テレビやラジオを視聴する	123 57%	36 63%	22 45%	41 60%	8 62%	16 55%	412 77%
趣味を楽しむ	42 19%	14 25%	6 12%	13 19%	5 38%	4 14%	242 45%
家でのんびり休養する	106 49%	34 60%	21 43%	32 47%	10 77%	9 31%	335 63%
ショッピングに行く	114 53%	30 53%	19 39%	46 68%	7 54%	12 41%	324 60%
メールやインターネットする	95 44%	29 51%	18 37%	33 49%	4 31%	11 38%	131 24%
新聞・雑誌・書籍を読む	38 18%	12 21%	4 8%	18 26%	2 15%	2 7%	204 38%
スポーツをする	30 14%	8 14%	3 6%	11 16%	4 31%	4 14%	106 20%
旅行に行く	50 23%	9 16%	9 18%	20 29%	0 0%	12 41%	109 20%
洗濯や掃除などの家事をする	119 55%	33 58%	24 49%	44 65%	7 54%	11 38%	245 46%
教会やお寺に行く	34 16%	9 16%	19 39%	3 4%	0 0%	3 10%	17 3%
ボランティア社会活動をする	8 4%	3 5%	0 0%	2 3%	0 0%	3 10%	24 4%
技術を研いたり勉強したりする	42 19%	12 21%	3 6%	18 26%	2 15%	7 24%	50 9%
その他	17 8%	8 14%	2 4%	2 3%	0 0%	5 17%	58 11%
回答者数	216 100%	57 100%	49 100%	68 100%	13 100%	29 100%	536 100%

生活面では、「民間賃貸・公営住宅・社員寮に住む人が多い」「母国料理を主に食べている」「休日家族で過ごす人が多い」ところが日本人市民と違っており、習慣面で、国によって「家族への愛情表現」「各国特有の行事・活動」「時間やルールに対する考え方」に差異が見られます。

- ▶ アンケート調査によると、日本人市民は持ち家（一戸建）が64%に対して、外国人市民では、民間賃貸が37%で最も多く、次いで公営住宅19%、社宅・社員寮等16%となっている。→[図4-1](#)
- ▶ ブラジル人、フィリピン人、中国人では、母国料理をほぼ毎日（8～10割）食べている人が半数以上いる。→[表4-3](#)
- ▶ 親子で暮らしている外国人市民は、日本人市民（40%）に比べて休日を家族で過ごす人が多い（56%）。→[図4-2](#)
- ▶ 外国人市民は、信じる宗教やそれぞれの母国の行事や活動を日本でも大切にしている。個別国籍では、ブラジル人は家族への愛情表現をキスやハグで表している。ブラジル人やフィリピン人は、教会に行く、食事の前に祈るといった宗教的な習慣があり、時間やルールに大らかで、時として日本人市民と軋轢を生じることがある。→[表4-4](#)

図4-1：外国人市民と日本人市民の住居比較

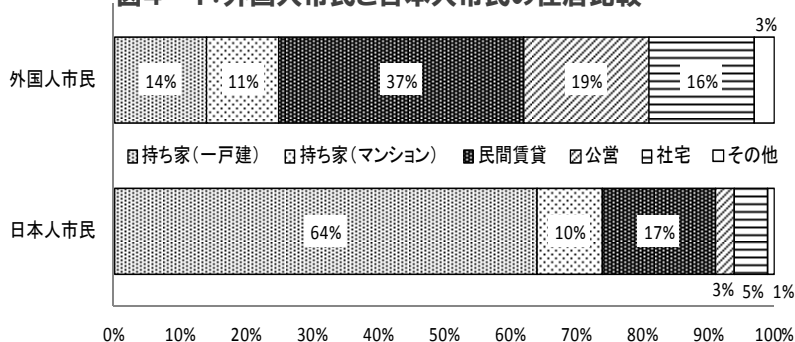


図4-2：休日を過ごす相手の比較

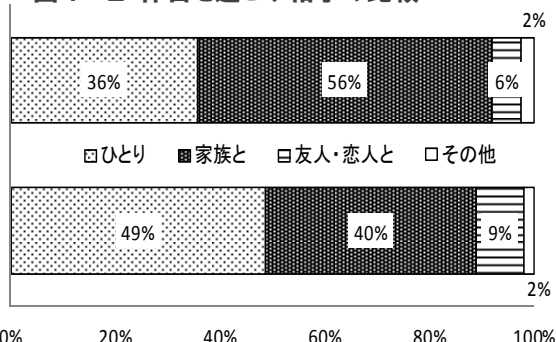


表4-3：外国人市民が食べている母国料理とその頻度

国籍	上位3位の料理	その他の料理(主なもの)	母国料理を食べる頻度
ブラジル	①フェジョン(煮豆) ②ステーキ・シュハスコ ③フェジョアータ (豆と豚肉の煮込み)	ラザニア、パステル、コシーニャス、ヒゾーリス、ケール、キビ、エスフィーハ、ピラダパウルスタ、ブリガデイロ、ムケーカ、ドッセ・ジ・レイチ、ウイナ、ビーフィ、ヴィナーギ、プジャーダ、パタバー	◇ 8～10割:51% ◇ 5割程度:14% ◇ 2割程度:16% ◇ 特別な時:9% ◇ 食べない:5%
フィリピン	①アドボ(肉の煮込み) ②シニガン(酸味スープ) ③ニラガ(水煮スープ)	バナクベット、フライドフィッシュ、ティノーラン、ソパス、プリトイサダ、メヌド、プリト、サルディナス、オドンク、チキンスープ、チョプソイ、パクベット、フィリピンカレー、シシグ、パクスイ、ルンピア、メチャド、ギナタアン	◇ 8～10割:53% ◇ 5割程度:20% ◇ 2割程度:15% ◇ 特別な時:6% ◇ 食べない:0%
中国	①餃子 ②野菜炒め ③麻婆豆腐	青椒肉絲、炒飯、卵とトマトの炒め、肉まん、ラーメン、シューマイ、チャーシュー、ジャガイモ炒め青椒、魚香肉絲、白菜豆腐煮込み、飲茶、骨付き煮、牛肉煮込み、甘酢スベア、ソースジャガイモ、野菜と肉のスープ、中華スープ、エビチリ	◇ 8～10割:45% ◇ 5割程度:16% ◇ 2割程度:13% ◇ 特別な時:22% ◇ 食べない:3%
韓国・朝鮮	①キムチ ②焼肉 ③チヂミ	スープ、ビビンバ、ナムル、ブルコギ、チゲ鍋、魚料理	◇ 8～10割:8% ◇ 5割程度:23% ◇ 2割程度:8% ◇ 特別な時:38% ◇ 食べない:23%

表4-4：外国人市民の特別な行事や習慣

国籍	特別な行事や活動	習慣
ブラジル	◇ クリスマス ◇ イースター ◇ フェスタ・ジュニーナ(6月祭・収穫祭) ◇ 年に一度親戚が集まる ◇ フットバレー	◇ ほおにキスして挨拶する ◇ 食事の前のお祈り ◇ 家族とはハグやキスで愛情を表現する ◇ 時間やルールに大らか
フィリピン	◇ クリスマス ◇ ホーリーウィーク ◇ 聖なる木曜日 ◇ グッドフライデー ◇ バレンタイン ◇ 大晦日の路上パーティー ◇ 国民的英雄の日	◇ 教会に行く ◇ 近所の人たちのおしゃべり ◇ 雨の日は外出しない ◇ 時間やルールに大らか
中国	◇ 旧正月／春節…対聯(たいれん)を貼り、爆竹を鳴らす ◇ 元宵節…ダンゴを食べる ◇ 中秋節…月餅を食べる ◇ 端午節…チマキを食べる	◇ 週1～2回朝の市場に行く
韓国・朝鮮	◇ 誕生日にはわかめスープ(肉入り)を飲む	◇ 目上・年上の人の前ではタバコを吸わない

⑤ 外国人市民の幸福度と悩みや困りごと

刈谷市の外国人市民は、全体としては日本人市民と同じ程度幸せと感じています。その中で、ブラジル人の幸福度がやや低く、雇用環境の悪化が影響していると考えられます。

表5-1:外国人市民の幸福度

	外国人市民					日本人市民	日本国民
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮		
	6.9	6.6	7.0	7.0	6.7	7.0	6.5

- ▶ 幸福度を10段階で尋ねた市アンケート調査によると、刈谷市の外国人市民の平均は、6.9で、日本人市民の7.0と同程度であった。その幸せの要素としては、「健康状況」60%、「家族関係」44%、「友人と恋人との関係」33%、「家計の状況」30%が上位となっている。→[表5-1](#)、[表5-2](#)
- ▶ 国籍別にみると、ブラジル6.6とやや低い幸福度となっていて、外国人市民の不幸せの要素の1位が「就業状況」41%であることも関連していると考えられる。また、幸せの要素の「自由な時間・充実した余暇」が、日本人市民は42%、外国人市民が19%というのが特徴的である。→[表5-2](#)

表5-2:外国人市民の幸せの要素と不幸せの要素（複数回答）

不幸せ		幸せ/不幸せの要素 (選択肢)	幸せ	
日本人市民	外国人市民		外国人市民	日本人市民
176 33%	82 38%	家計の状況 (所得・消費)	64 30%	194 36%
114 21%	88 41%	就業状況 (仕事有無・安定)	38 18%	112 21%
136 25%	32 15%	健康状況	129 60%	301 56%
88 16%	47 22%	自由な時間・ 充実した余暇	42 19%	223 42%
57 11%	21 10%	仕事・趣味・社会 貢献の生きがい	47 22%	128 24%
91 17%	25 12%	家族関係 (子ども・配偶者)	96 44%	273 51%
32 6%	16 7%	友人や恋人 との関係	71 33%	121 23%
73 14%	25 12%	職場の人間関係	22 10%	28 5%
51 10%	25 12%	地域コミュニ ティとの関係	13 6%	30 6%
45 8%	41 19%	母国の家族 との関係	57 26%	6 1%
0 0%	20 9%	その他	13 6%	0 0%
536 100%	216 100%	回答者数	216 100%	536 100%

刈谷市の外国人市民は、「仕事」「子ども」「老後」に悩みや困りごとを抱え、主に「家族や親戚」「友人」「市役所」に相談しています。市役所への相談は、税金・保険や行政の制度に関するものが多くなっています。

- ▶ 愛知県のアンケート調査によると、刈谷市の外国人市民の悩みや困りごとの1位は「子どもやその教育のこと」15%、2位は「仕事や収入のこと」14%、3位が「老後のこと」10%となっているが、「特にない」が53%を占め、半数は特段悩みや困りごとはない。→[表5-3](#)
- ▶ 悩みや困りごとの最初の相談先は、「市内外の家族や親族」48%、「地域の友達」11%、「市役所」6%となっている。→[表5-4](#)
- ▶ 市役所の相談内容は、「税金」23%、子ども関連の「福祉」14%、「在留資格」13%、「保険年金」10%が上位となっている。→[表5-5](#)、[図5-1](#)
- ▶ 外国人相談窓口の認知度や利用経験は、ブラジル人が高く(70%/53%)、中国人が低い(43%/6%)。→[表5-6](#)

表5-3:外国人市民の悩みや困りごとの内容

悩みや困りごと	1位、2位、3位の割合
1. 仕事や収入のこと	14% - 13% - 13%
2. 子どもやその教育のこと	15% - 7% - 2%
3. 夫婦・恋人の関係	0% - 3% - 2%
4. 近所・職場の人との関係	0% - 5% - 3%
5. 老後のこと	10% - 5% - 6%
6. その他	3% - 2% - 0%
7. 特にない	53% - 52% - 55%

表5-4:外国人市民の悩みや困りごとの相談先

悩みや困りごとの相談先	1位、2位、3位の割合
1. 刈谷市に住んでいる家族や親族	35% - 5% - 3%
2. 刈谷市外に住む家族や親族	13% - 18% - 10%
3. 同じ地域に住んでいる友達	11% - 29% - 5%
4. 職場の同僚や上司	2% - 3% - 6%
5. 組長など居住地の日本人リーダー	0% - 2% - 0%
6. 刈谷市役所	6% - 2% - 6%
7. その他	11% - 6% - 5%

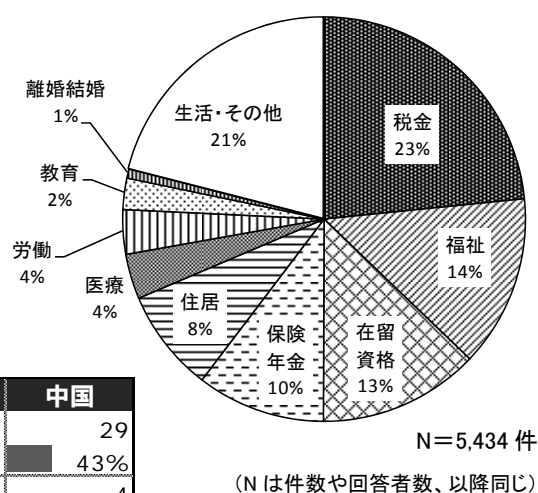
表5-6:市役所の外国人相談窓口の認知度と利用経験

区分	ブラジル	フィリピン	中国
認知度	40%	27%	29%
利用経験	30%	12%	4%

表5-5:刈谷市の外国人生活相談の種別件数

種別	相談内容	件数
税金	納税、所得証明申請等	1,271
福祉	乳幼児保育関係・児童手当等	749
在留資格	外国人登録関係	700
保険年金	保険加入	559
住居	入居申請・相隣関係等	448
医療	病院・予防接種関係	196
労働	職探し・内職探し問題	194
教育	学校・塾・幼稚園	136
離婚結婚	男女問題等	39
生活・その他	印鑑登録・ゴミ問題・翻訳・ビザ	1,142
合計		5,434

図5-1:刈谷市の外国人生活相談の種別割合



刈谷市の外国人市民の半数程度は、ある程度の日本語会話ができますが、ブラジル人、フィリピン人は読み書きが不自由です。その情報格差により地震などの災害時対応やその備えなどでも心配されます。

- ▶ 刈谷市の外国人市民の日本語会話は、「日本人と同程度」23%、「日常会話」38%と半数以上がある程度能力があるが、ブラジル人とフィリピン人の能力はやや低い。愛知県アンケート調査では、中国人、韓国・朝鮮人を除き、「聞く・話す」に比べて、「読む・書く」の方が苦手な人が多い。→表5-7
- ▶ 外国人市民は、東海地震等の認知度は低く、地震などへの備えも少なく、災害時には特別な援護を要する「災害時要援護者」である。→表5-8、表5-9

表5-7:外国人市民の日本語の会話能力

選択肢	国籍					
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
日本人と同程度	50 23%	7 12%	6 13%	19 28%	12 92%	6 21%
日常の会話なら できる	82 38%	22 39%	22 46%	25 37%	1 8%	12 41%
簡単な単語なら 聞き、話せる	79 37%	28 49%	19 40%	23 34%	0 0%	9 31%
まったく会話で できない	4 2%	0 0%	1 2%	1 1%	0 0%	2 7%
合計	216 100%	57 100%	49 100%	68 100%	13 100%	29 100%

※未回答を除いているため
選択肢の数値の合算と
合計は一致しない。以
降、同様な表の表題の
最後に「(*)」を記す。

表5-9:外国人市民の地震などへの備え
(複数回答)

選択肢	外国人市民	日本人市民
非常持ち出し品の準備	32 15%	637 44%
食糧や水などの備蓄	31 14%	611 42%
避難場所の確認	69 32%	589 41%
火災警報器の設置	46 21%	450 31%
家具転倒防止器具の取り付け	20 9%	424 29%
家族で災害連絡の話し合い	44 20%	275 19%
住宅の耐震診断又は耐震補強	11 5%	209 15%
その他	9 4%	9 1%
特に準備していない	83 38%	332 23%
回答者数	216 100%	1,441 100%

表5-8:外国人市民の東海地震・東南海地震の認知度 (*)

選択肢	外国人市民						日本人市民
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他	
刈谷市で予想震度を知っている	17 8%	7 13%	4 8%	2 3%	3 23%	1 4%	158 11%
起きる可能性高いと知っている	112 53%	36 65%	14 29%	41 61%	8 62%	13 46%	1,117 78%
名前ぐらいは知っている	24 11%	7 13%	4 8%	7 10%	2 15%	4 14%	115 8%
全く知らない	58 27%	5 9%	26 54%	17 25%	0 0%	10 36%	25 2%
合計	216 100%	57 100%	49 100%	68 100%	13 100%	29 100%	1,441 100%

⑥ 外国人市民の子どもとその教育

刈谷市には、20歳未満の外国人の子どもが630人登録され、小学校には152人、中学校には62人在籍しています。

- ▶ 平成22年末現在、刈谷市に外国人登録している子どもは、乳幼児(0~6歳)が280人、小学期(7~12歳)が188人、中学期(13~15歳)が71人、16~19歳が91人、合計で630人となっている。このうち、小学校には152人、中学校には62人在籍しています。→[表6-1](#)、[表6-2](#)

表6-1:年代別外国人の人口と比率

年代	総人口	外国人人口	外国人比率
0~6歳	10,691	280	2.6%
7~12歳	9,109	188	2.1%
13~15歳	4,435	71	1.6%
16~19歳	5,988	91	1.5%
20歳代	21,524	1,135	5.3%
30歳代	24,904	1,085	4.4%
40歳代	20,839	603	2.9%
50歳代	15,494	300	1.9%
60歳~	32,660	169	0.5%
合計	145,644	3,922	2.7%

表6-2:学校別の外国人児童・生徒数の状況

小学校名	在籍	語学必要	中学校名	在籍	語学必要
富士北小	6	4	富士松中	0	0
富士東小	1	1			
富士松南小	3	0	雁が音中	36	31
かりがね小	60	52			
平成小	6	2			
日高小	3	0	刈谷東中	3	2
小高原小	13	10			
亀城小	4	3	刈谷南中	9	2
住吉小	6	0			
衣浦小	2	1			
双葉小	4	2	依佐美中	3	0
小垣江小	5	1			
小垣江東小	4	0	朝日中	11	5
東刈谷小	9	6			
朝日小	26	16	中学校計	62	40
小学校計	152	98	小・中学校合計	214	138

子どもを持つ外国人市民の多くが子育てに不安や悩みを持っており、「子育ての方法」「子どもへの差別やいじめ」「子育てや教育にかかる費用」「子どもの健康」「母国と日本の生活習慣の違い」が上位となっています。

- ▶ 子どもを持つ外国人市民のうち子育てに不安や悩みが「とてもある」が29%、「少しある」が47%と、多くが不安や悩みを抱えている。その内容で多いのは、「子育ての方法」55%、「子どもへの差別やいじめ」55%、「子育てにかかる費用」52%、「子どもの健康」46%、「母国と日本の生活習慣の違い」39%などとなっている。→表 6-3、表 6-4
- ▶ 国籍別にみると、ブラジル人は「費用」、フィリピン人は「生活習慣の違い」「子どもへの母国語等の教育」など、中国が「差別やいじめ」が1位となっている。→表 6-4
- ▶ 不安や悩みの内容には、「子どもの未就学や不登校」が8%あり、統計上も外国人登録者数と学校在籍数に差があり、帰国、転居、他学校在籍の場合もあるが、未就学となっている可能性もある。→表 6-1、表 6-2、表 6-4

表6-3:子育てへの不安や悩みの有無

選択肢	外国人市民					
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
とてもある	27 29%	17 52%	4 17%	4 18%	0 0%	2 15%
少しある	44 47%	12 36%	10 43%	13 59%	2 100%	7 54%
あまりない	15 16%	2 6%	6 26%	5 23%	0 0%	2 15%
まったくない	7 8%	2 6%	3 13%	0 0%	0 0%	2 15%
全体	93 100%	33 100%	23 100%	22 100%	2 100%	13 100%

表6-4:子育てへの不安や悩みの内容
(複数回答)

選択肢	外国人市民					
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
子どもの健康	33 46%	14 48%	6 43%	10 59%	1 50%	2 22%
子育ての方法	39 55%	18 62%	6 43%	10 59%	1 50%	4 44%
子どもへの差別やいじめ	39 55%	18 62%	4 29%	12 71%	1 50%	4 44%
子どもの未就学や不登校	6 8%	3 10%	2 14%	0 0%	0 0%	1 11%
就学前の子どもの預け先	17 24%	6 21%	1 7%	7 41%	0 0%	3 33%
子どもの進学や進路	25 35%	18 62%	3 21%	3 18%	0 0%	1 11%
子どもの日本語の習得	14 20%	7 24%	2 14%	3 18%	0 0%	2 22%
子どもの国籍の選択	9 13%	4 14%	2 14%	3 18%	0 0%	0 0%
子どもへの母国語や文化の教育	28 39%	9 31%	6 43%	10 59%	0 0%	3 33%
子どもと子どもの友人との関係	25 35%	14 48%	5 36%	3 18%	0 0%	3 33%
子育て・教育にかかる費用	37 52%	21 72%	6 43%	7 41%	0 0%	3 33%
母国と日本の生活習慣の違い	28 39%	15 52%	6 43%	4 24%	1 50%	2 22%
保育園や学校について情報不足	15 21%	6 21%	2 14%	6 35%	0 0%	1 11%
その他	4 6%	1 3%	1 7%	0 0%	0 0%	2 22%
回答者数	71 100%	29 100%	14 100%	17 100%	2 100%	9 100%

刈谷市の小・中学校に在籍する外国人の子どもは年々増加しており、特にかりがね小学校、朝日小学校、雁が音中学校に集中しています。2/3の子どもに日本語指導が必要です。

- 刈谷市の小・中学校に在籍する外国人児童・生徒は、2002年以降増加傾向にあり、特に2007年からフィリピン人が急激に増加し、他の国籍の子どもの減少を相殺する勢いである。→[図6-1](#)
- 学校別にみると、かりがね小学校 60人、朝日小学校 26人、雁が音中学校 36人と集中して在籍している。→[表6-2](#)
- 国籍別にみると、フィリピンが96人と最も多く、次いでブラジル71人、中国13人、ペルー12人などとなっている。→[表6-5](#)
- 外国人児童・生徒の64%が、日本語の指導を必要としており、タガログ語、ポルトガル語だけでなく、少数でも多言語の対応が必要である。→[表6-5](#)
- かりがね小学校、朝日小学校では、小学校入学前のプレスクールを行っている。

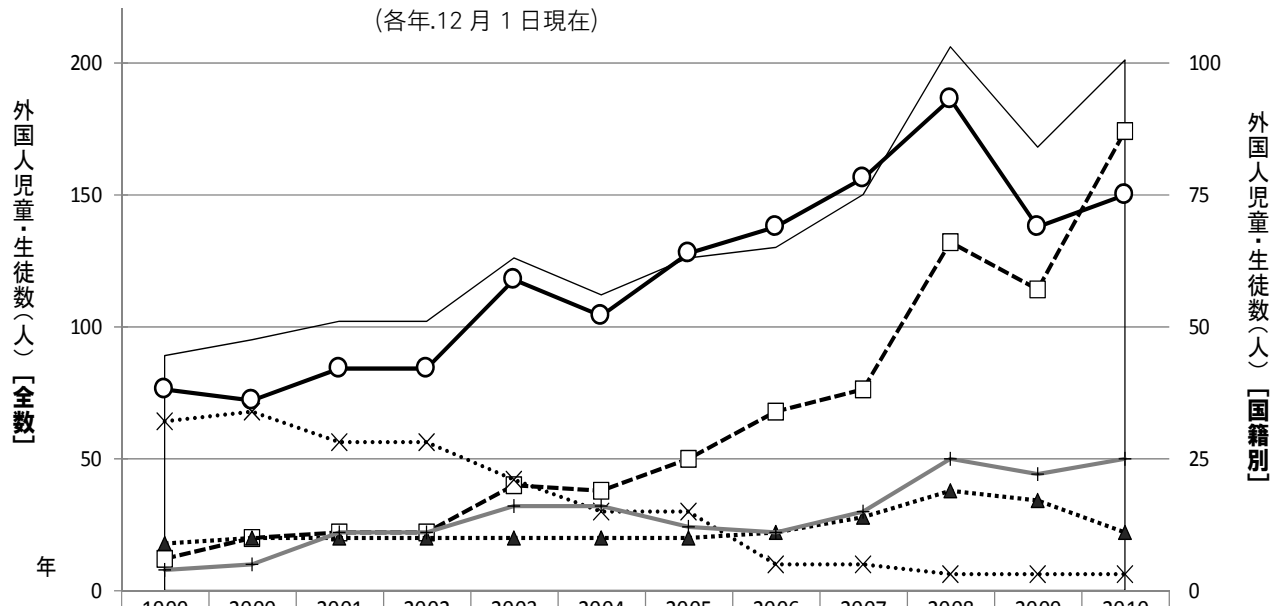
表6-5:国籍別の外国人児童・生徒数の状況

国籍	合計	学校内訳		語学必要
		小学	中学	
フィリピン	96	70	26	70
ブラジル	71	48	23	46
中国	13	10	3	4
ペルー	12	8	4	8
韓国	4	3	1	1
ベトナム	4	3	1	4
ミャンマー	3	2	1	2
ロシア	2	1	1	0
スリランカ	2	2	0	0
その他	7	5	2	3
計	214	152	62	138

※その他…インドネシア、コロンビア、バングラデシュ、ウクライナ、インド、ニュージーランド、ポリビア

図6-1:刈谷市における外国人児童・生徒数の推移

(各年.12月1日現在)



年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
全数	89	95	102	102	126	112	126	130	150	206	168	201
ブラジル	38	36	42	42	59	52	64	69	78	93	69	75
フィリピン	6	10	11	11	20	19	25	34	38	66	57	87
中国	9	10	10	10	10	10	10	11	14	19	17	11
韓国・朝鮮	32	34	28	28	21	15	15	5	5	3	3	3
その他	4	5	11	11	16	16	12	11	15	25	22	25

⑦ 外国人市民から見た刈谷市や日本（人）への評価

外国人市民は、日本人市民よりも強く刈谷市を住みよいと感じています。「交通・通勤・買い物」が便利で「公共サービスが充実」していることが理由です。

- ▶ 「大変住みよい」36%、「どちらかといえば住みよい」51%、合わせて87%の外国人市民が、刈谷市のことを住みよいと感じている。これは日本人市民よりも高い値である→表7-1
- ▶ 住みよい理由は、「買い物や外食が便利」57%、「交通の便が良い」52%、「仕事場や学校が近い」45%、「医療・福祉サービスが充実している」44%、「犯罪が少ない」44%、「公共施設が充実している」42%などで、国籍別では、ブラジル人の1位が「外国人向けのサービスが充実している」63%、フィリピン人の1位が「買い物や外食が便利」71%であることが特徴的である→表7-2

表7-1：外国人市民による刈谷市の住み良さ評価（*）

選択肢	外国人市民						日本人市民
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他	
大変住みよい	76 36%	18 32%	26 54%	17 25%	5 38%	10 34%	631 22%
どちらかといえば住みよい	109 51%	31 55%	15 31%	46 68%	3 23%	14 48%	1,711 59%
どちらともいえない	19 9%	4 7%	5 10%	1 1%	5 38%	4 14%	419 14%
どちらかといえば住みにくい	9 4%	3 5%	2 4%	3 4%	0 0%	1 3%	102 4%
大変住みにくい	1 0%	0 0%	0 0%	1 1%	0 0%	0 0%	14 0%
合計	216 100%	57 100%	49 100%	68 100%	13 100%	29 100%	2,911 100%

表7-2：
住みよい理由
（複数回答）

選択肢	外国人市民					
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
緑が多い	65 35%	18 37%	15 37%	25 40%	0 0%	7 29%
公共施設が充実している	77 42%	28 57%	15 37%	24 38%	0 0%	10 42%
買い物や外食が便利	106 57%	27 55%	29 71%	37 59%	0 0%	13 54%
医療・福祉サービスが充実	82 44%	30 61%	19 46%	18 29%	3 38%	12 50%
外国人向けのサービスが充実	58 31%	31 63%	12 29%	8 13%	0 0%	7 29%
外国人団体や同郷の仲間がいる	41 22%	13 27%	13 32%	10 16%	0 0%	5 21%
交通の便が良い	97 52%	28 57%	24 59%	30 48%	3 38%	12 50%
仕事場や学校が近い	84 45%	24 49%	22 54%	29 46%	1 13%	8 33%
地域での人間関係が良い	53 29%	19 39%	13 32%	12 19%	3 38%	6 25%
子育てをしやすい	42 23%	25 51%	4 10%	7 11%	0 0%	6 25%
犯罪が少ない	82 44%	26 53%	22 54%	21 33%	3 38%	10 42%
災害が少ない	57 31%	22 45%	15 37%	14 22%	1 13%	5 21%
住居費が安い	21 11%	9 18%	2 5%	6 10%	0 0%	4 17%
その他	4 2%	0 0%	3 7%	1 2%	0 0%	0 0%
回答者数	185 100%	49 100%	41 100%	63 100%	8 100%	24 100%

外国人市民は、「安全」「清潔」な日本、「礼儀正しい」「正直」「勤勉」な日本人を良いと捉え、「物価が高い」日本、「偏見・差別」を持つ日本人を残念に思っています。→表7-3

表7-3:外国人市民が見る日本(人)の良いところ/残念なところ (数字は件数)

国籍	良いところ	残念なところ
ブラジル	【日本】 …◇安全 14 ◇整然としている 10 ◇清潔 8 ◇暴力・犯罪が少ない 6 ◇交通の便がよい 4 ◇住みやすい 2 ◇安定 2 ◇財政 2 ◇環境への配慮 2 【日本人】 …◇礼儀正しい 13 ◇誠実・正直 9 ◇働き者 5 ◇教養ある 3 ◇親切 2 ◇辛抱強い・我慢強い 2 ◇接客 2	【日本】 …◇税金が高い 6 ◇地震 3 【日本人】 …◇差別・偏見 15 ◇冷たい・温かみがない 7 ◇閉鎖的 5 ◇コミュニケーションが少ない 2 ◇控えめで打ち解けない 2 ◇感情を表さない 2
フィリピン	【日本】 …◇清潔 8 ◇仕事がある 4 ◇安全・住みやすい 3 【日本人】 …◇礼儀正しい 9 ◇正直 6 ◇もてなし 3 ◇勤勉 2 ◇規律正しい 2 ◇自分自身を規制できる 2	【日本】 …◇生活費が高い 2 ◇孤独な人々 2 【日本人】 …◇(外国人に対する)差別 7 ◇英語(外国語)が話せない 5 ◇外国人嫌い 3 ◇マナーが悪い 2
中国	【日本】 …◇治安がいい・安全 9 ◇きれい 7 ◇環境 5 ◇居住環境がいい 3 ◇清潔 2 ◇空気 2 ◇気候・天気がいい 2 ◇住みやすい 2 ◇食品が安全 2 ◇環境の配慮 2 【日本人】 …◇優しい 9 ◇礼儀正しい 8 ◇真面目 8 ◇親切 6 ◇ルールを守る 5 ◇挨拶する 3 ◇マナーがいい 2 ◇正直 2 ◇接客サービスがいい 2 ◇国民資質が高い 2 ◇一生懸命働く・勤労 2	【日本】 …◇物価が高い 5 ◇にぎやかでない・ひっそりしている 3 【日本人】 …◇人間関係が冷淡 5 ◇若い人は年寄りの人を尊敬しない。2 ◇外国語を話せる人が少ない 2 ◇偏見・差別 2

外国人市民の6割以上が、「家族・親戚が日本にいる」「治安がよい」「仕事がある」「子どもの教育・将来」を主な理由に、日本に住み続けたいと考えています。

▶ 表7-3のように評価される日本であるが、「ずっと住み続ける」23%、「できるだけ住み続けたい」40%と、定住意向のある外国人が63%となっている。→表7-4

▶ その理由は、1位「家族、親戚が日本にいる」53%、2位「治安がよい」49%、3位「仕事がある」48%、4位「子どもの教育、将来のため」46%、5位「日本や居住地域に愛着がある」34%である。国籍別には、ブラジル1位が「仕事がある」67%、中国1位が「子どもの教育、将来のため」51%、フィリピンと韓国・朝鮮では

表7-4:外国人市民の日本での定住意向(*)

選択肢	外国人市民					
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
ずっと住み続ける	49 23%	6 11%	8 17%	20 29%	9 69%	6 21%
できるだけ住み続けたい	85 40%	33 61%	21 45%	21 31%	1 8%	9 31%
研修や勉強が終わったら帰国	21 10%	1 2%	0 0%	18 26%	0 0%	2 7%
条件・状況次第では帰国	23 11%	7 12%	7 14%	3 4%	0 0%	6 21%
決めていない	26 12%	5 9%	9 19%	5 7%	2 15%	5 17%
その他	7 3%	2 4%	2 4%	1 1%	1 8%	1 3%
全体	216 100%	57 100%	49 100%	68 100%	13 100%	29 100%

「家族・親戚が日本にいる」という理由が高率となっている→表 7-5

表7-5:定住したい理由（複数回答）

選択肢	外国人市民					
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
仕事がある	64 48%	26 67%	11 38%	17 41%	3 30%	7 47%
子どもの教育、 将来のため	61 46%	23 59%	10 34%	21 51%	0 0%	7 47%
家族、親戚が日 本にいる	71 53%	14 36%	21 72%	18 44%	10 100%	8 53%
持ち家がある	18 13%	2 5%	5 17%	6 15%	3 30%	2 13%
友人がいる	29 22%	11 28%	6 21%	4 10%	5 50%	3 20%
治安がよい	65 49%	24 62%	14 48%	17 41%	1 10%	9 60%
日本や居住地域 に愛着がある	46 34%	22 56%	1 3%	19 46%	1 10%	3 20%
日本語でき生活 に不自由しない	27 20%	9 23%	1 3%	14 34%	1 10%	2 13%
その他	7 5%	2 5%	4 14%	1 2%	0 0%	0 0%
回答者数	134 100%	39 100%	29 100%	41 100%	10 100%	15 100%

⑧ 外国人市民と日本人市民との関わり・交流

日本人市民の4人に3人は市内の外国人市民と関わりがなく、7割は外国人の知人・友人がいません。

- ▶ 日本人市民は、市内の外国人の関わりについて、「見かけないし関わりもない」38%、「見かけるが関わりはない」39%、合わせて77%が、関わりがないとしている。市職員は、その傾向がさらに強い。→表 8-1
- ▶ 関わりがある日本人市民は、「仕事でのつきあいがある」8%、「会った時に挨拶する」6%、「一緒に遊び・食事する」3%、「保護者同士のつきあいがある」2%などとなっている。→表 8-1
- ▶ 日本人市民には、9%が刈谷市内に、12%が刈谷市外に、13%が海外に、外国人の知人・友人がいるが、71%がどこにもいない。→表 8-2

表8-1:日本人市民(市職員)の
外国人市民との関わり程度
(複数回答)

選択肢	日本人 市民	市職員
見かけるが 関わりはない	211 39%	159 30%
会ったときに 挨拶する	33 6%	21 4%
仕事での つきあいがある	43 8%	47 9%
保護者同士の つきあいがある	13 2%	26 5%
一緒に遊び ・食事する	17 3%	13 2%
イベント等の 機会であう	7 1%	6 1%
その他	27 5%	13 2%
見かけないし 関わりもない	205 38%	257 48%
回答者数	536 100%	534 100%

表8-2:日本人市民の外国人の
知人・友人の有無
(複数回答)

選択肢	日本人 市民
刈谷市内にいる	47 9%
刈谷市外の 国内にいる	64 12%
海外にいる	68 13%
いない	379 71%
回答者数	536 100%

地域における日本人市民と外国人市民の生活上のトラブルは、一部で起こっているものの、小規模で、個別に現場レベルで解決されることもあり、顕在化していません。

- ▶ 近所に住む外国人市民とトラブルの経験がない日本人市民が多い。「ない」が62人中58人。「ある」が2人で、その内容は交通事故と「絡まれた」で、生活習慣上のトラブルではない。→愛知県アンケート調査
- ▶ 中国人研修生が1ヶ月間居住する研修寮の周辺住民から、中国人が運転する自転車のマナーが悪く、危ないというクレームを受けたことがある。→事業者ヒアリング H23
- ▶ ごみ出しのルールが守られてない。→アンケート調査[市職員]
- ▶ 今川地区…問題点「外国人がゴミ出しのルールをあまり知らない」/今後「習慣や文化を理解し、交流に活かす。」「あいさつ程度の外国語を覚えて、声をかける。」「外国語版の市民生活マニュアルを用意し、マナーを伝える。」など→地域福祉計画策定時の地域住民会議 H21
- ▶ 小垣江地区…「工業団地があり外国人居住者とのコミュニケーション不足」→地域福祉計画策定時の地域住民会議 H21

表8-3:望むまちの姿(複数回答)

選択肢	外国人市民	日本人市民
緑豊か・自然との調和	70 32%	246 46%
ごみや公害のない清潔	97 45%	187 35%
産業が盛ん・活気あふれる	66 31%	245 46%
国際的・世界平和に貢献	77 36%	52 10%
文化・教育が充実で生きがい	91 42%	218 41%
中心市街地の魅力・にぎわい	38 18%	98 18%
安全・安心で暮らせる	122 56%	366 68%
住環境が快適で暮らしやすい	77 36%	235 44%
障がい者・子ども・高齢者を大切	52 24%	207 39%
違いを尊重・共に生きる	105 49%	61 11%
子どもが健やかに育つ	62 29%	220 41%
魅力を持った個性のある	25 12%	87 16%
市民参画・行政協働の市民自治	25 12%	54 10%
その他	8 4%	12 2%
回答者数	216 100%	536 100%

望むまちの姿からみると、多くの日本人市民が外国人市民との関わりを強く意識していないことが読み取れます。

- ▶ 望むまちの姿として、外国人市民は、「違いを尊重・共に生きるまち」が49%で2位、「国際的に開かれ世界平和に貢献するまち」が36%で5位となっているのに対して、日本人市民はそれぞれ11位と12位で、38ポイント、26ポイント少なく、関心に低さが表れている。→表8-3

外国人市民にとっては、周りの環境のほとんどが異文化で、日本人等との交流の意向が高くなっており、言葉の壁を越え、機会を創出すれば、交流が進む可能性があります。

- ▶ 外国人市民の13%が日本人等と「積極的に交流したい」、62%が「機会があれば交流したい」と望んでおり、特に、中国人の交流意向が92%と飛び抜けて高くなっている。

→表8-4

- ▶ 外国人市民と日本人市民が交流するうえでの最大の障害は、「言葉がわからない」(外国人市民40%、日本人市民61%)である。特に、フィリピンは63%と強く意識されている。次いで、「交流の機会が

表8-4:外国人市民の日本人等との交流の意向

選択肢	外国人市民					
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
積極的に交流したい	28 13%	3 6%	2 4%	16 24%	0 0%	7 24%
機会があれば交流したい	131 62%	28 52%	36 75%	46 68%	5 38%	16 55%
あまり交流したくない	25 12%	11 20%	8 17%	3 4%	3 23%	0 0%
全く交流したくない	6 3%	3 6%	0 0%	0 0%	1 8%	2 7%
わからない	22 10%	9 17%	2 4%	3 4%	4 31%	4 14%
全体	216 100%	57 100%	49 100%	68 100%	13 100%	29 100%

ない」(外国人市民36%、日本人市民36%)である。特に中国では44%と最も高い。3位は、日本人市民が「相手がよくわからない」27%、外国人市民が「時間が取れない」24%となっている。→表 8-5

表8-5:日本人等と交流するうえで障害となること(複数回答)

選択肢	外国人市民						日本人市民
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他	
言葉がわからない	86 40%	19 33%	31 63%	24 35%	2 15%	10 34%	326 61%
時間が取れない	51 24%	14 25%	8 16%	20 29%	2 15%	7 24%	26 5%
国民性や習慣の違い	45 21%	13 23%	13 27%	12 18%	1 8%	6 21%	96 18%
交流の機会が少ない	78 36%	20 35%	13 27%	30 44%	4 31%	11 38%	193 36%
相手がよくわからない	18 8%	4 7%	4 8%	6 9%	1 8%	3 10%	147 27%
その他	9 4%	6 11%	3 6%	0 0%	0 0%	0 0%	13 2%
特に困ることはない	28 13%	10 18%	2 4%	8 12%	5 38%	3 10%	46 9%
回答者数	216 100%	57 100%	49 100%	68 100%	13 100%	29 100%	536 100%

⑨ 外国人市民における国際化・多文化共生

外国人市民向けの活動のうち相談窓口と日本語教室の認知度や参加度は比較的高くなっていますが、その他の講座等の認知度も参加度も、低い状況です。

- ▶ 外国人相談窓口、日本語教室の認知度は50%を超えているが、国際交流フェスタ、防災教室、安全教室の認知度は15~25%と認知度は低い。→表 9-1
- ▶ 利用度は、外国人相談窓口でブラジル人が53%、日本語教室でその他の外国人が41%と高くなっている。→表 9-1

表9-1:外国人市民向けの活動の認知度と利用度

外国人向け活動	程度	外国人市民					
		全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
外国人相談窓口	認知度	115 53%	40 70%	27 55%	29 43%	2 15%	17 59%
	参加度	53 25%	30 53%	12 24%	4 6%	0 0%	7 24%
親善ボランティア日本語教室	認知度	113 52%	34 60%	26 53%	34 50%	1 8%	18 62%
	参加度	44 20%	10 18%	9 18%	13 19%	0 0%	12 41%
国際交流フェスタ	認知度	54 25%	11 19%	16 33%	16 24%	0 0%	11 38%
	参加度	15 7%	0 0%	3 6%	9 13%	0 0%	3 10%
外国籍住民のための防災教室	認知度	41 19%	12 21%	9 18%	13 19%	1 8%	6 21%
	参加度	9 4%	3 5%	0 0%	4 6%	0 0%	2 7%
外国籍住民防犯・交通安全教室	認知度	33 15%	9 16%	8 16%	10 15%	1 8%	5 17%
	参加度	4 2%	1 2%	1 2%	1 1%	0 0%	1 3%

外国人市民は、多様な情報を欲しており、特に、病気・事故・災害といった「緊急時の対応情報」と、講座・イベント・相談窓口などの「外国人向けの生活情報」の必要度が高くなっています。

▶ アンケート調査において、連絡先を書いて国際化・多文化共生に関する情報提供を希望した人は、外国人市民で58%と高く、日本人市民は10%であった。→[図9-1](#)

▶ 具体的に暮らしに必要とされている情報は、1位が「病気事故時の連絡先や対処方法」47%、2位「外国人向け講座やイベントの情報」47%、3位「健康保険や年金の情報」40%、4位「避難所など災害対策の情報」38%などとなっている。ブラジル人は「税金の情報」、フィリピン人は「市役所等外国人向けの相談窓口」を1位にあげるなど、国籍によって主なニーズが異なっている。→

[表9-2](#)

図9-1：情報提供希望の有無

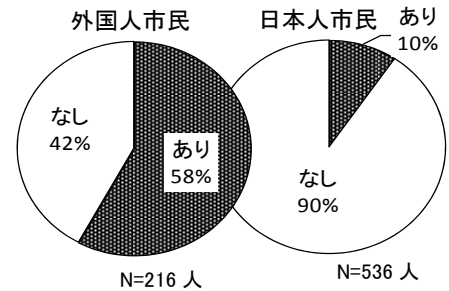


表9-2：暮らしに必要な情報（複数回答）

選択肢	外国人市民					
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
病気事故時の連絡先や対処方法	102 47%	27 47%	25 51%	38 56%	1 8%	11 38%
外国人向け講座やイベントの情報	101 47%	30 53%	27 55%	31 46%	1 8%	12 41%
健康保険や年金の情報	87 40%	23 40%	25 51%	25 37%	2 15%	12 41%
避難所など災害対策の情報	81 38%	28 49%	19 39%	21 31%	5 38%	8 28%
仕事に就くための情報	80 37%	19 33%	26 53%	25 37%	0 0%	10 34%
税金の情報	73 34%	30 53%	17 35%	17 25%	1 8%	8 28%
日本の文化や観光の情報	73 34%	23 40%	16 33%	23 34%	0 0%	11 38%
市役所等外国人向けの相談窓口	72 33%	12 21%	29 59%	24 35%	0 0%	7 24%
出産や教育など子育ての情報	55 25%	19 33%	12 24%	20 29%	0 0%	4 14%
防犯や子どもの安全の情報	51 24%	26 46%	8 16%	13 19%	0 0%	4 14%
電車やバスなどの交通情報	47 22%	14 25%	7 14%	19 28%	2 15%	5 17%
交通ルールや運転免許の情報	39 18%	11 19%	14 29%	9 13%	0 0%	5 17%
入国や出国の手続きの情報	39 18%	9 16%	10 20%	16 24%	0 0%	4 14%
介護などの福祉の情報	31 14%	6 11%	10 20%	10 15%	2 15%	3 10%
ごみ出しや町内清掃等のルール	27 13%	8 14%	7 14%	8 12%	1 8%	3 10%
まちづくり参画のための情報	27 13%	10 18%	11 22%	2 3%	0 0%	4 14%
その他	14 6%	4 7%	4 8%	4 6%	0 0%	2 7%
特にない	12 6%	4 7%	0 0%	5 7%	2 15%	1 3%
回答者数	216 100%	57 100%	49 100%	68 100%	13 100%	29 100%

外国人市民の国際化・多文化共生の拠点施設への期待は大きく、必要な機能としては、「人権意識啓発」「情報収集・発信」「出会い・交流」といった機能が上位となっています。

- ▶ 「刈谷市国際プラザ」に求める機能は、外国人市民が、「外国人への差別や偏見をなくすように日本人へ意識啓発を進める」59%、「外国人に必要な情報を多言語で発信する」55%、「日本人と外国人が知り合い交流を進める」53%となっている。一方、日本人市民は、「外国人が日本の文化や習慣について学ぶ」50%、「外国人が日本語の学習をする」44%、「日本人が外国の文化や習慣を学ぶ」「日本人が外国語を学習する」43%となっており、それぞれ期待する機能が異なっている。→[図 9-2](#)
- ▶ 外国人市民の国際プラザの利用意向は、「企画運営にも」17%、「積極的に利用」45%、合わせて 62%と高く、期待されているといえる。→[図 9-3](#)
- ▶ 外国人市民の社会に貢献したい気持ちについては、55%が「思っている」と答え、特に中国人は 79%と高くなっています。

図9-2:国際プラザに必要な機能

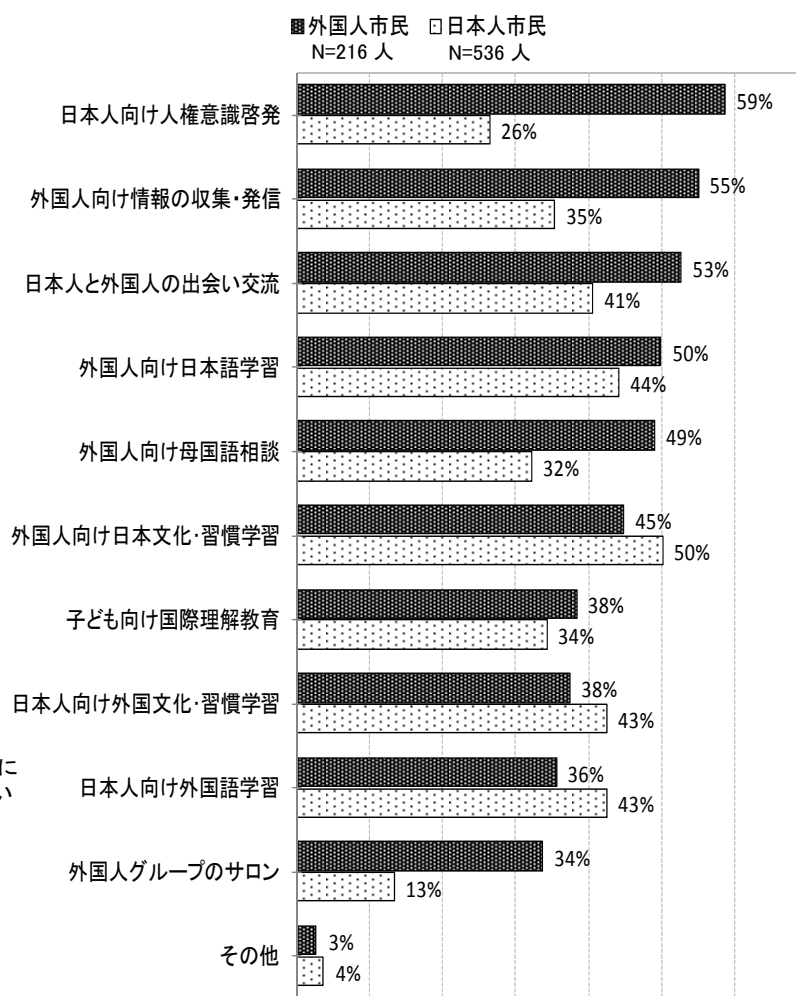


図9-3:国際プラザの利用意向

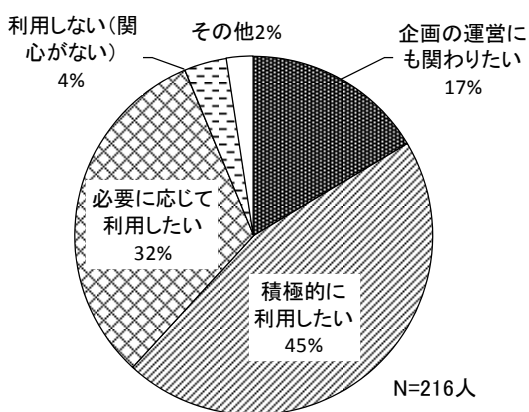


表9-3:社会に貢献したい気持ち(*)

選択肢	外国人市民					
	全体	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	その他
思っている	114 55%	28 54%	14 30%	52 79%	7 54%	13 45%
あまり考えていない	55 27%	17 33%	18 38%	8 12%	4 31%	8 28%
わからない	38 18%	7 13%	15 32%	6 9%	2 15%	8 28%
全体	216 100%	57 100%	49 100%	68 100%	13 100%	29 100%

⑩ 日本人市民における国際化・多文化共生

日本人市民の外国訪問経験率は72%、半年以上の外国滞在経験人数は推定8,000人、日常の英会話できる率は11%。となっています。

- ▶ 日本人市民の外国への訪問回数は、5回以上29%、2~4回26%で5割を超え、一度でも外国訪問経験のある人の割合は72%である。→[図10-1](#)
- ▶ 訪問国数は、「5~9か国」「3~4か国」が各17%と高く、「2か国」13%、「10か国以上」という人も7%いる。→[図10-2](#)
- ▶ 訪問地域は、「ハワイ・グアム等」42%、「韓国・台湾・中国」40%の人气が高く、「ヨーロッパ」26%、東南アジア25%、北米19%が続いている。→[図10-3](#)
- ▶ 半年以上の外国滞在経験がある日本人市民は、5.7%であり、刈谷市全体に換算すると、約8,000人となる。→[図10-4](#)
- ▶ 日本人市民の英語会話の程度は、「ペラペラ」1.3%、「日常会話程度」9.8%、合わせて11%が一定の英語会話ができる。また、若い世代の方がより多く、若年層(16~39歳)では16%となっている→[表10-1](#)
- ▶ 英語以外では、8%が会話できるとし、具体的にはロシア語、インドネシア語、イタリア語、ベトナム語、中国語、ドイツ語、韓国語などである。

図10-1:外国への訪問回数

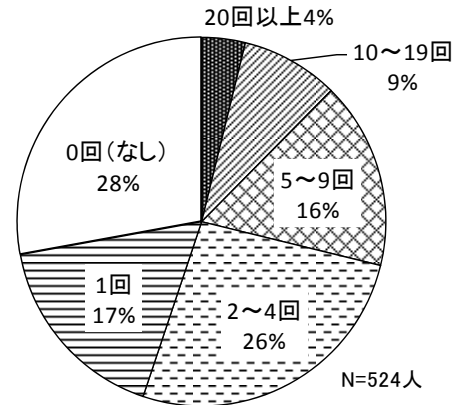


図10-2:外国への訪問国数

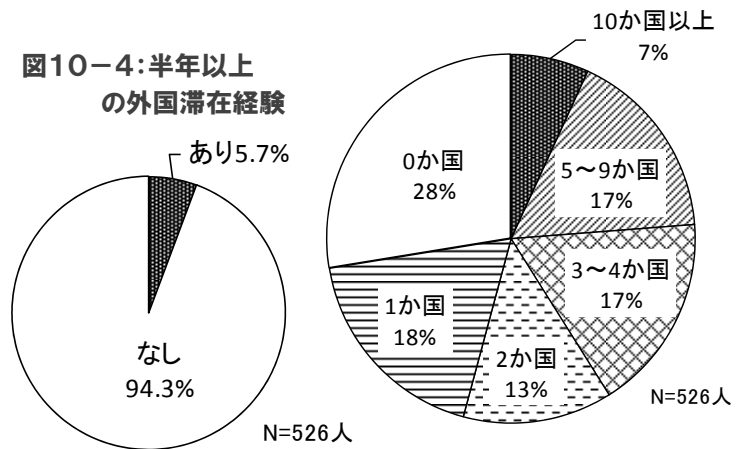


図10-3:外国への訪問地域

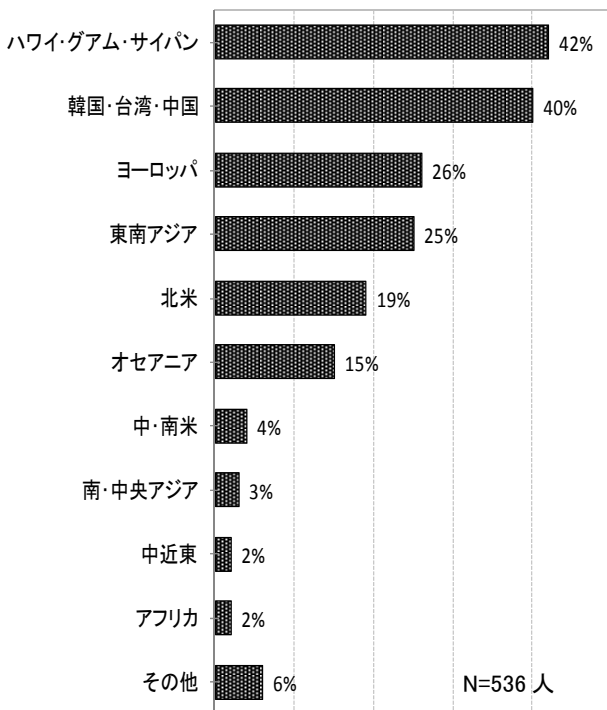


図10-4:半年以上の外国滞在経験

表10-1:英語会話の程度

選択肢	全体	年齢層		
		若年層 16~39歳	中年層 40~59歳	高年層 60歳以上
ペラペラ	7 1.3%	3 1.7%	4 2.4%	0 0.0%
日常会話程度	51 9.8%	25 14.3%	17 10.0%	9 5.1%
単語理解程度	221 42.3%	100 57.1%	80 47.1%	41 23.4%
できない	243 46.6%	47 26.9%	69 40.6%	125 71.4%
合計	522 100.0%	175 100.0%	170 100.0%	175 100.0%

日本人市民の国際的なことへの関心はスポーツや旅行など趣味に関するものが高くなっています。一方で紛争や環境など国際課題や地域での国際交流や多文化共生に関するものにも関心が寄せられています。

- ▶ 日本人市民の関心のある国際的なことは、「国際的スポーツ」46%、「世界遺産」45%、「海外観光旅行」38%が上位3位で、趣味に関する分野が高く、経済分野が「世界経済の動向」32%、国際課題分野が「世界の戦争・紛争・テロ」30%、「地球規模の環境問題」25%などとなっている。→[図 10-5](#)
- ▶ 市などが行う国際化・多文化共生事業の日本人市民の認知度は、「ミササガ市との姉妹都市提携」が79%と高いが、「外国人相談員による相談窓口」では22%、それ以外の活動は15%未満となっている。年齢層別にみると、全体的に高年層ほど認知度が高い傾向はあるが、「ナマステ・インディア」については若年層でも比較的認知度が高くなっている。→[表 10-2](#)
- ▶ 国際化・多文化共生まちづくりへの日本人市民の参加意向は、「積極的に」5%、「ときどき」13%、「必要があれば」50%と必ずしも高いとはいえないが、その中でも若年層では、参加意向が強くなっている。→[表 10-3](#)
- ▶ 参加したい内容としては、「外国人交流イベントや講座」が40%と高く、若年層では54%と半数を超えている。「共生のまちづくり組織や会議」への参加意向は8%と低いが、刈谷市全体に換算すると、1万人以上となる。→[表 10-4](#)

図10-5: 関心のある国際的なこと

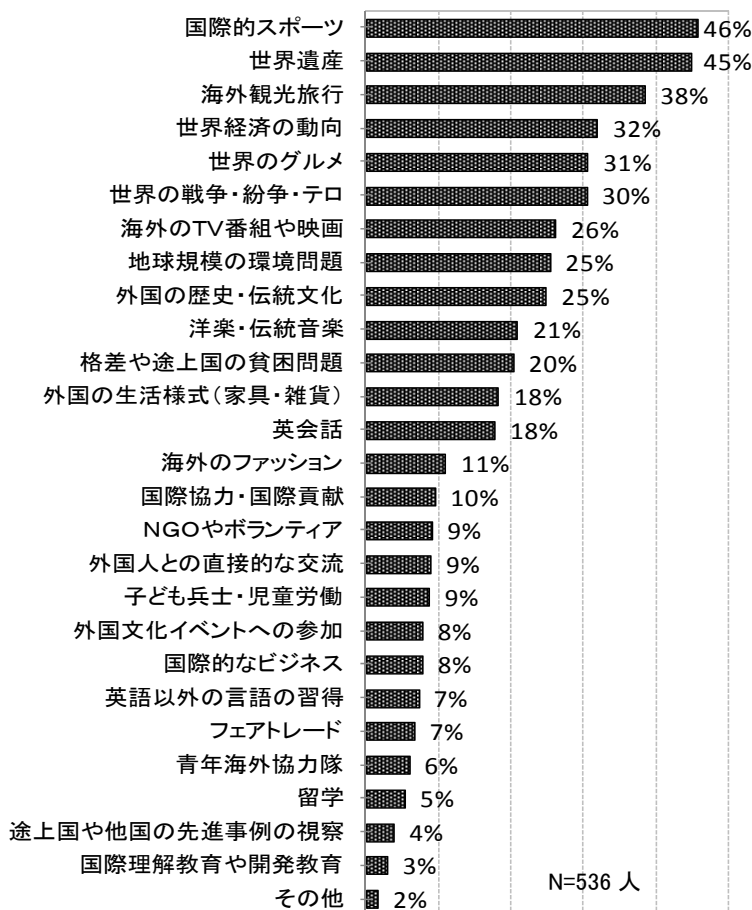


表10-2: 国際化・多文化共生事業の認知度 (複数回答)

選択肢	全体	年齢層		
		若年層 16~39歳	中年層 40~59歳	高年層 60歳以上
ミササガ市との姉妹都市提携	421 79%	122 70%	142 84%	157 83%
外国人相談員による相談窓口	116 22%	30 17%	36 21%	50 26%
ナマステ・インディア inKariya	79 15%	32 18%	31 18%	16 8%
愛・地球博のフレンドシップ国	76 14%	19 11%	24 14%	33 17%
国際交流フェスタ inKariya	60 11%	18 10%	23 14%	19 10%
親善ボランティア日本語教室	42 8%	12 7%	14 8%	16 8%
外国籍住民防犯・交通安全教室	25 5%	6 3%	8 5%	11 6%
外国籍住民のための防災教室	12 2%	0 0%	1 1%	11 6%
回答者数	536 100%	175 100%	170 100%	189 100%

表10-3: 国際化・多文化共生まちづくりへの参加意向

選択肢	全体	年齢層		
		若年層 16~39歳	中年層 40~59歳	高年層 60歳以上
積極的に参加したい	27 5%	17 10%	7 4%	3 2%
ときどきは参加したい	70 13%	29 17%	25 15%	16 8%
必要があれば参加したい	268 50%	94 54%	97 57%	76 40%
参加したくない	171 32%	35 20%	41 24%	94 50%
合計	536 100%	175 100%	170 100%	189 100%

表10-4: 参加希望の活動内容 (複数回答)

選択肢	全体	年齢層		
		若年層 16~39歳	中年層 40~59歳	高年層 60歳以上
外国人交流イベントや講座	214 40%	94 54%	77 45%	43 23%
近隣外国人との交流や話し合い	130 24%	41 23%	45 26%	44 23%
外国人支援ボランティア活動	86 16%	32 18%	36 21%	18 10%
国際協力や国際理解教育講座	47 9%	14 8%	16 9%	17 9%
共生のまちづくり組織や会議	43 8%	15 9%	14 8%	14 7%
その他	10 2%	6 3%	3 2%	0 0%
回答者数	536 100%	175 100%	170 100%	189 100%

⑪ 外国人市民との関わりでこころ温まる話

■ 日本人市民が体験した外国人市民とのこころ温まる関わりや出来事

- 同じコンビニを毎日利用していた時、アルバイトの中国人留学生と世間話をするようになった。「日本語の勉強になるから、たくさん話してください」と言われ、自分も留学生の前向きさに刺激を受け、一日の疲れも癒される思いがした。深夜1:00まで仕事をした帰りの時間帯は、コンビニの利用者も自分だけで、20～30分位レジ前で立ち話をしていた(店長さんごめんさい)。【40代/女性】
- スーパーでの接客中、欧米系の外国人が帰り際に「とてもいい接客をありがとう」と言ってくれた。日本人にとっての当たり前接客を外国人の方が心からほめてくれた。【20代/女性】
- 日本人のご主人を持つ奥様(フィリピン人)に和食を、フィリピン奥様からフィリピン料理のレシピの交流・交換をしている。【40代/女性】
- 外国人のお母さんが日本で子どもと話すのを聞いていたら「三河弁」だったので何だか嬉しかったです。【40代/女性】
- 会社の同僚の奥さんが言葉が通じなく孤立していて、どうしていいか困っていたので話を聞いてあげて、ハイウェイオアシスの温泉の回数券をあげてゆっくりしておいでと言ってあげた。【40代/女性】
- 二十数年前、仕事で中国人の研修生と仲良くなり、寮内にて日本語を教え、帰省に伸びるボールペンを多数プレゼントした。日本人(刈谷市民)も外国人も情という事を大事にしてもらいたい。【50代/男性】
- ブラジルより来日した一家4人(子ども2人)と多少交流がありましたが、やはり言葉が通じないと難しいことが多々ありました。でも私たちの引っ越しがきっかけで、一家の良さも分かり、大変うれしかった事を覚えています。それは、衣類・机・筆筒等、生活に必要な物を処分しようとしていたとき、ほしいと言われ、どうぞとさしあげました、その時の4人の笑顔が、母親の涙が今も心に焼き付いています。【50代/女性】
- 会社内だけの付き合いですが、中国人で30歳の女性がいます。今年3月に帰国しますが、毎日食堂で食事していると自分で作った中国のギョーザをごちそうしてくれます。初めて食べる味でしたがおいしかったです。中国のコインもプレゼントしてくれてうれしく大切に保管してあります。【50代/女性】
- ブラジルの人の家族と話した時、私はポルトガル語がわからない、相手の親も日本語がわからないときに、小学6年生の相手の子どもが通訳してくれた。【60代/男性】
- 町内の行事でアメリカ人とインド人の学生と出会った。行事の中で自分の国では体験したことがない行事があり、国に帰ったら学校や地域で行ってみたいと喜んでた。【60代/男性】
- タイ人の友達はとても勉強家で一生懸命に言葉を覚えていて、今では私たちよりも漢字を沢山覚えています。すごいです。【60代/女性】
- 愛教大のブラジル留学生からお茶のおけいこをしたいと言われ、手前から着物の着付けも教え、又、刈谷にきたいと言われたこと。交換留学生を縁に父母子ども、カナダの方と20年以上交流が有ること。【60代/女性】

■ 市職員が体験した外国人市民とのこころ温まる関わりや出来事

- 子どもたちが外国人と遊んだ後で、親などに外国人から教わった外国の情報などを伝えていた。
- 園児の母親が国(ブラジル)の料理を知ってもらいたいと、お菓子を焼いて持って来てくれた。
- ニコニコ挨拶をしてくれることが嬉しい。
- アパートに住むブラジル人が自国に長期に帰郷した際、残った弟さんが電気料滞納で電気を止められたことを相談に来たので、中電営業所に電話し、連れて行った。土曜日だったので守衛さんと裏口で会って立て替えして、電気の復旧をしてもらった。弟さんは日系人であったが、風貌は一目で外国人とわかる姿、私もジーパン姿でインターホンに答えてドアを空けた瞬間金縛りに会ったようなしぐさであった。立て替えてお金を払うとやっと安心したようだ。

- ▶ 多くのブラジル人が住んでいる場所に暮らしている。隣接する小学校では、外国の子どもたちも多く、学区で行われる運動会では、日本語の後にポルトガル語のアナウンスがある
- ▶ 近所の公園で、子ども（未就学）を遊ばせていると、同じように子どもを遊ばせている外国人を見かける。ボール遊び等、いつの間にか子ども同士で遊びだすこともある。そのとき親同士は会話をすることはないが、同じように子どもの楽しむ様子を見ている。

⑫ 具体的にやりたいこと、貢献できそうなこと

アンケートの自由記入で回答された声を分類した結果は次のとおりです。

■ 外国人市民の声

- ◇ 外国人と日本人が交流できる催し物や企画を行う。
- ◇ 外国人にとって自国をアピールできる場所、外国人が憩える居場所作りを行う。
- ◇ 日本人の外国人に対する意識変革、多様性理解を促す。
- ◇ 外国人自身が「外国人は困った人ではない」ことを日本人に示す。
- ◇ 日本語、日本文化・ルール、その他専門的なことを学ぶ機会を作る。
- ◇ 日本人が外国語や文化を学ぶ機会を作る。
- ◇ 外国人の社会参加を進める。 ◇ 外国人どうしの相互扶助を進める。
- ◇ 公共の場でのコミュニケーション・サポートを行う。
- ◇ 外国人を雇用する企業を増やす、外国人雇用のシステムを改善する。

■ 日本人市民の声

- ◇ 互いの文化を知り、交流する機会を作る。 ◇ 世界に刈谷を発信する。
- ◇ 外国人への偏見を払拭し、日本人と外国人、また日本人どうしも積極的に関わろうとする日本人側の意識変革を進める。
- ◇ 言葉よりわかりあおうという気持ちを大切にする。
- ◇ 外国人市民と日常的な関わり合いを持ち、日本語、母国語であいさつする。
- ◇ 日本人市民と外国人市民、外国人市民どうしをつなぐ人、モノ、システム、広報などを充実させる。
- ◇ 外国人が主体者、企画者となる機会、社会参加の機会を作る。
- ◇ 語学を習得する。 ◇ 多言語表記、多言語サポートを行う。

■ 市職員の声

- ◇ 多様性理解のためによく「聴き」&「伝える」。
- ◇ スポーツや料理を通して交流する。 ◇ 身近な場所で関わりあい助け合う。
- ◇ 具体的な国際交流、国際協力を行う。 ◇ 語学で貢献する。
- ◇ 多様な人と関わるよう心がける。